

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2020

事業所番号	2672200066		
法人名	社会福祉法人みねやま福祉会		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	京都府京丹後市峰山町吉原71-4		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和2年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旬の食材で食事を手作りし、家庭的な雰囲気の中、ご入居者も職員も「お互いさま」の気持ちを大切に協力しあって、お一人ずつのペースに合わせた生活ができるように支援しています。学習療法に取り組まれるご入居者も増えました。

2019年11月に新型コロナウイルス感染初事例が発表されて以降、現在も感染予防対策として、外出・面会の制限等を行っています。その為、ご入居者の希望を叶えられていない現状があります。ご家族と地域やボランティアの皆さんと行っていた行事や活動も中止しています。ですが、ご入居者と職員だけで恒例の行事は行い、こんな時だからこそ楽しい事は無くさない工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京丹後市峰山町の住宅街にある昔ながらの木製和風住宅、開設18年になる1ユニットのグループホームである。今年のコロナ禍での閉塞状況の中、家族の面会、地域のみなさんとの行事や交流が少なく、職員は其中で利用者に少しでも楽しい思いをしてもらいたいと、行事や新しい企画の提案をしている。庭に花壇を作り、利用者だけでなく、地域の人にも楽しんでもらいたい、ホーム内で運動会をし、利用者は赤白に分れ、白熱した応援も賑やかに笑いが満ちたひと時となっている。職員も利用者同様、生まれ育った地域で利用者との生活を楽しんでいる。地元産でつくる手作りの食事、お正月はすき焼きを楽しんでいる。利用者は家事だけでなく、どんな動物や植物でも折り紙で作る人、折り紙を散らした秋の里山風景画、紅葉と富士山を新聞の切り抜きで創作する人、芸術的にレベルの高いアート作品はみんなを楽しませている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念ともみじの理念・方針を事務所に貼り出している。 その理念に基づいてサービス提供している。	法人の理念「より質の高い福祉サービスの提供、地域の人たちの心豊かで安心安全な暮らしへの貢献、誇りと夢をもち福祉の仕事にまい進できるよう職員の幸福追求(要約)」を踏まえ、グループホームもみの理念「利用者職員と一緒に楽しみ笑顔を絶やさない」を策定、ホーム内に掲示、職員は毎日確認、理念の実践として、利用者との密接なかかわりによる暮らしの支援、地域ときめ細かに連携、行事やサロンに地域の人を招き、利用者と共に楽しむ等の貢献をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・清掃活動に参加している。 もみじの行事に、ご家族や地域の方をお招きしている。 月一度のサロンを開催している。が、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方と一緒にには行えていない。	利用者はふだんホームの近くを散歩している。地域で開催される花見会、区民館の草取り、納涼祭、敬老会、天神祭り、水無月祭、初詣等に利用者は参加、なかでも小学校の学習発表会は楽しみである。ホームの行事である納涼祭と忘年会には地域の人を招いている。ホームでサロンを毎月開催、地域の人も参加、利用者、職員も一緒にお茶をしながら、ボランティアの演芸やカラオケを楽しんだり、アートの創作をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やサロン開催のチラシでも、相談を受けていることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回行い、現況報告などしたり参加者との意見交換をしている。が、新型コロナウイルス感染予防のため1度も開催していない。構成員には資料を配布し、意見等を聞き取っている状況。	家族、1区区長、1区民生委員、1区福祉委員、京丹後市長寿福祉課が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。ホームから利用状況、事故・ヒヤリハット、行事等を報告後意見交換している。「グループホームのことをよく知りたい」等の意見があり対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、高齢者部会なども中止しているため、そういった場面でのやり取りはない。が、相談事がある時は、電話等を使い、いつでも相談できる状況がある。	地域ケア会議には介護関係、医療関係の事業所の施設長や担当者等が隔月に集まり、情報交換や困難事例の検討、介護、医療、福祉関係の事項をテーマに研修をしており、参加して学んでいる。市内の8グループホームが隔月に開催しているグループホーム連絡会に参加、情報や意見交換により、学ぶことも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在はセンサーマットの使用が1件ある。身体拘束検討委員会会議を年4回開催し、その件や、他に拘束になっている事がないか等話し合っている。 年2回、勉強会をしている。	身体拘束をテーマに職員研修を年2回実施、職員は身体拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロック等について認識している。身体拘束委員を決め、日常的に事例を点検している。センサーマット使用の利用者が1人、3か月ごとに検討、家族同意をとっている。玄関ドアのほか、庭に出ることができるガラス戸等、日中はすべて施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されているご入居者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の話を聞き、説明をし入居して頂いている。解約の際も、ご家族の話を聞き、退居後の生活をどう支えられるサービスがあるか等について説明をしている。 退居後もいつでも相談に応じるので連絡をくださいと伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は、電話や、物品を届けていただいたときなどに要望等をお聞きしている。	家族には行事等のカラー写真を多数掲載した『もみじだより』を毎月送付、その一部のスペースに個々の利用者の担当職員がその月の様子を簡単に手書きしている。家族からは「こんなことがまだできるんですね。びっくりしました」「笑顔の写真が嬉しかった」等の感想をもらっている。「学習療法をさせてほしい」「玄関先でも面会したい」等の意見があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ある会議、人事考課の面接時のほか、日常的に意見交換をしている。 改善できることはし、やりたい企画があればできるよう協力し合っている。	毎月職員会議を開催、運営、行事、ケース等について話し合い、職員は積極的に意見や提案を出している。利用者の担当、身体拘束委員等職員は役割分担している。職員同士のチームワークはよく、人間関係の悩みはない。互いに励ましあいながら業務に励んでいる。「利用者の笑顔が仕事のやりがい」という。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和2年度は、やった事のなかった仕事にも挑戦してもらっている。 それぞれの事情に合わせ、勤務できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防のため、外部への研修は行けていない。Webでの法人内の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム職員の意見交換会も中止のため、今年度は交流できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、話を聞いている。 ケアプランは、それらを参考に立てている。 入居してからの1か月は、特に配慮し、早くなじんでいただけるよう関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、話を聞いている。 入居したばかりの時期は、様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況が、今グループホームで生活することが良いタイミングかどうかは、ご家族だけでなく、担当ケアマネジャーとの情報交換をし、判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お互いさま」の気持ちを忘れずご入居者がお礼を言う立場ばかりにならず、ご入居者にお礼を言える支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけが関わっているのではなく、良い面も困った面も報告し、どうしていくかをご家族とも相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため、これも制限があり、出来ているとはいいいがたい。	利用者が住んでいた地区の役員をしていた人、入居前に参加していたサークルでの友人、入居前に一緒に過ごしていた人、等々が面会に来てくれる。利用者は懐かしく喜んでいる話をしている。「またいつでも寄ってください」と、お願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士での口論がある時はフォローに入っている。 家事を複数の方と一緒にすることで助け合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時にはご本人から意向の意向を伺っている。 日頃の会話からも、希望があればできる範囲で叶うようにしている。	契約時に管理者が家族、利用者に面談、グループホームの説明をするともに利用者の介護、医療の情報を収集している。家族、利用者それぞれのグループホームの暮らしについての「思い」を聴取、記録している。利用者の思いは「できることをしたい」「世話にならないようにしたい」「ようわからんようになってきた」等が記録されている。利用者の生活歴は北朝鮮清津、城崎等の出身地、生家は酒屋、父は会社員、兄弟姉妹3人、6人等生家のこと、現役の時の仕事は機織り、工場勤務等、趣味はカラオケ、喫茶店でコーヒー、モーニングを食べる等の記録がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時、入居前は、ご家族や担当ケアマネジャーから聞き取っている。面接時や入居は、日頃のご本人との会話やご家族から伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議、記録、日頃会話の中で、その方の状況について情報共有するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新時にはご本人から意向の意向を伺っている。 説明時に変更したい事があれば変更し、納得のいく内容でサインをもらっている。	利用者のアセスメントをし、介護計画を立て職員会議で検討している。介護計画は利用者の意向に添っているものの、暮らしの楽しみが「散歩」「ドライブ」「レク参加」等、その利用者固有のものではない。また認知症のBIPSDに対しては「くもん学習療法」のみとなっている。介護記録はバイタル、食事量、水分量、排泄、入浴等と利用者の様子を書いている。介護計画の実施記録はない。モニタリングは実施していない。	利用者の介護計画には身体介護だけでなく、暮らしのなかの楽しみの項目、認知症のBPSDの発症を防ぎ認知症のしんこうを遅らせるための項目、この3種類に項目が必要である。「楽しみの項目」はみんなと一緒にするドライブやレクだけでなく、その人だけがしたいことを入れること、認知症対応の項目はくもん療法だけでなくその人の状況にあわせたものを入れること：介護記録は生活の記録だけでなく、介護計画の実施記録を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは毎月実施すること、以上の5点が求められる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議、記録、日頃会話の中で、その方の状況について情報共有するよう努め、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時の送迎、薬の受け取りなどの要望に応えている。 例年のような法人内の、高齢部門、児童部門との交流はできていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院はご家族にお願いしている。 入居前と変わらない病院を利用されている方や、近い方がよいからと変更された方がいる。 医師と相談してほしい内容はご家族に口頭で伝えたり、書面を渡している。	入居前からの利用者のかかりつけ医に継続して受診しており、定期受診は家族が同行している。 利用者のグループホームでの心身の状況は家族に口頭や文書で提供し、医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない。 法人内の看護師や、病院に連絡を取り相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて病院、ご家族と話をしている。その情報は、職員に共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度3になった時点で、特養への申請を勧めている。 もみじでできること、できないことや、退居になった場合は、どんなサービスを利用して生活できるのかを伝えている。	利用者との契約書及び重要事項説明書に、「退居になる場合」として「連続して1か月を越えて入院すると見込まれる場合、もしくは入院した場合」という条項がある。利用者の要介護度が3になったときに特養の申請を勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や、体調不良の方がいる時に、どう対応するのか確認している。 救急車要請がスムーズにできるよう、電話に「119」などの必要事項を張り付けたり、ご入居者情報ファイルを置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。火災だけでなく、地震想定も行っている。 消防への通報に合わせて自動で電話連絡が回るシステムに、職員、同法人内施設、隣組の方が登録されている。隣組の方から、地域の福祉委員等へ連絡をしてもらうことになっており、3月には連絡網を回した後、地域の役員の皆さんがもみじに駆け付け、避難する訓練をしているが、今年まではできていない。	消防署の協力のもと火災の避難訓練を実施している。ふだんから火災、地震等に向けての避難訓練を毎月実施している。法人内施設や職員間の連絡網があり、協力体制ができています。地域の防災訓練に参加、地域との協力体制も完備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そうであるよう心掛けている。 会議や身体拘束の勉強会で、言葉やハラスメントについて学んでいる。	利用者への対応や言葉遣いについて「接遇」の職員研修をしている。高齢者の尊厳を尊重、プライバシーに配慮、スピーチロックやなれなれしい言葉遣いに注意している。暮らしではできるだけ利用者に決めてもらいたいと業務の都合で介護を進めるのではなく、入浴、レクの参加、お茶の時間に飲みたいもの等、利用者に聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したい事を聞いたときは、新型コロナウイルス感染予防に努めた範囲で叶えられるよう工夫している。何かするために話しかける時、「～してもらえますか？」のように、疑問形で聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位になる事柄もあるが、無理強いせず、ご本人の意思を尊重している。 食事など決まったことをする時間以外は思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。 痛んだ衣類の交換や化粧水などの補充をご家族にお願いしている。 着たい服を着ていただくが、汚れたりおかし い時は声を掛け替えていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	誕生日やそのほかの時、ご入居者に食べた いものを聞く事もある。 皮むき、材料切り、盛り付け、お茶入れ、 コーヒー淹れ、コーヒー配膳、食器洗いな ど、一緒に行っている。	献立は利用者に希望を聞きながら職員が立て、 食材の買物に行き、配達してもらっている。丹後 の食文化を大切に季節感に富んだ食事を3食手 作りしている。利用者は野菜切り、皮むき、盛り付 け等をしている。食事介助が必要な利用者はい ない。職員も一緒に食卓を囲み会話しながら食事を 楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	その方にあった食事形態、量でお出ししてい る。 献立や食事・水分摂取量を記録している。 食欲の有無と排便の有無も確認している。 希望者には自室でお茶が飲めるよう用意し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自立でできている方と、必要な方には朝晩 に声掛けをしている。 歯ブラシやカップは月一度、消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な誘導をし、できない部分を支援して いる。 交換ができる方は、トイレ内に替えのパッド 類を用意している。	ほとんどの利用者は尿意があり、トイレの場所を 知っている。安心のためにリハパンとパットを使用 している。職員は利用者の排泄パターンを把握し ており、トイレ誘導している。夜間のみ1人の利用 者がオムツ使用である。下剤に頼らない自然排便 の支援として食材の工夫と水分提供をしている。 下剤使用の利用者は6人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	食事内容の工夫や水分量、下剤のコント ロールをしている。 運動をすることが嫌いな方で、できる方 には、モップ掛けなど作業を手伝って頂く事で 運動できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と、午後に、入浴時間を設け、誘って「入る」と言われた時に入らせていただくようにしている。その為、数日間入れない事もある。	浴室は家庭風呂、個浴を据えている。入浴は時間を決めずに声掛け、利用者が「入りたい」の時に3日に1回の支援をしている。「入りたくない」という日が続く人も少なくとも月に6回は入浴できている。湯船にゆったり浸かって楽しむ人、介助の職員との会話を楽しむ人、季節にはゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者は、それぞれ自室とフロアで過ごす時間をご自分で決めておられる。夜間になると、「帰る」と言われる方々には、話を聞き安心して休んでいただけるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後、薬の変更がないかどうかをご家族に確認している。変更があった時は、違った様子(改善・悪化など)がないか観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、交流、外出等の機会がなくなってしまった。行事は全くなしにはせず、もみじ内でしている。サロンも、ミニサロンとして楽しい時間の一つにし気分転換を図っている。恒例行事も行なっている。 お酒を飲む機会もある。 もみじの畑や家事、レクリエーションや創作、クイズ、学習療法など、その方が好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、ほとんど出かけられていない。 車から下りず、市内をドライブするだけとなっているが、回数はぐっと減ってしまった。	利用者は気候が良く、天気が好ければ1週間に1回くらいはホームのまわりや小学校のグラウンドに散歩に出かけている。みんなで出かけるドライブは天女の里、小町公園、道の駅、バラ園、ひまわり畑、SL広場、丹後王国等市内の名所に毎週くらい出かけている。「どこかへ行きたい」等、利用者の希望があれば職員との個別の外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と相談・確認をし、現在は1名の方が所持されている。昼夜お金の心配されている為、訴えがある時は聞くようにしている。 何度も数えられボロボロになるので、ご家族に交換をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染の発生で面会ができなくなったので、希望されたご入居者には、ご家族あての手紙を書いていただき郵送した。 電話が掛けたいと言われる時には、掛けている。 LINEのビデオ通話による面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は、明るすぎず暗すぎない光で、適度な死角が作られている。外部からの音もほとんどない。 室温は、空調を使って調整し、乾燥する時期は加湿器を使用している。現在は、新型コロナウイルス感染予防の為、薬液を入れた加湿器をずっと使っている。 壁などには、季節ごとにご入居者と作ったものや、花などを飾っている。	玄関を開けると土間にげた箱、正面に衝立、その奥に居間兼食堂、左手に座り机と座布団を置いた畳コーナー、奥は台所と事務室、左右の廊下沿いに居室が並んでいる。廊下に置いたソファから四季の風景、畑や植木が見え、利用者が枯れ葉の掃除や水やりをしている。事務室のカウンターに置いた大きな花瓶にすすきと秋の花を挿している。廊下の壁には利用者職員合作の季節の飾り絵を張り雰囲気をやわらかくしている。秋の作品は紅葉を背景にした、北斎顔負けの富士山、である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思うままに、フロアや自室で過ごされている。他のご入居者の居室へも良き、談笑されている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や家具類・食器などは、ご自宅で使用されていたものを、とご家族に説明している。 自室のレイアウトはご家族の思いで設定されている。気になる場合は、ご本人が模様替えをされているので、思うように設定してもらっている。 掃除は、定期的にできる方は一緒に行っている。	居室は洋間、窓が大きく明るい。洗面台が設置されている。利用者はベッド、寝具、筆筒、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等を持ちこんでいる。ベッドの上の寝具、ラックに吊るした衣類、机の上の位牌や遺影、裁縫箱、自作の手の込んだ折り紙、手作りの季節の風景画等の飾り、造花、化粧品、愛読書、誕生日に職員からの写真入りメッセージカード、家族との写真等が利用者らしさを表している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、老人車、車椅子、杖など、その方にあつた方法で歩行し、行きたい所に行ける。 タンスにシールを貼り、何が入っているか分かるようにしている。		